

令和8年度 三角山小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：21018

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

実態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◇主体的な子どもの育成 →R7 児童アンケートの結果から、「学習の中で、自分から考えたり工夫したり、分からないことは質問したりしている」という児童の割合が8割を超えている。また、「端末を活用して、学習の理解を図ったり、計画的に学習したりしている」という児童の割合が増加している。 ◇教材や他者とつながる授業構成 →単元での学びを意識して授業を構成したり、他者とのつながりを意識しながら学習を計画し、実践してきたことで、学ぶ楽しさや期待感をもつことにつながっている。	◇他者意識と自律 →R8 学校経営方針策定に向けた教職員アンケートでは、他者の意見から学び取ろうとしたり、自らの行動を振り返ったりすることに課題があることについて多数の意見が示された。 ◇実生活に生きる学習 →学ぶ意欲や学ぶ楽しさを感じながら学習している一方で、R7 全国学力・学習状況調査では、「授業で学んだことを、次の学習に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」という項目では、肯定的な回答が8割弱に止まっている。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇R7 全国学力・学習状況調査では「学級の友達と話し合う活動を通じて、自らの考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている。」の項目で肯定的な割合が9割を超えているが、「学級生活をよりよくするために、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。」という項目では、8割弱に止まっており、他者から学び取ろうとする他者意識の低さが見られる。学級や学年の授業で育むことに加え、縦割りでの活動を引き続き継続することで、異学年との関わりから自己肯定感や自己有用感、さらには上級生への憧れの気持ちを育み、相互承認の態度を高めていく。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分で問題を発見し、自らの意思で学び進め、自らの成長や学びの進捗を自覚できるようにする。

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	◇子どもたちが見通しをもち、主体的に学び合う学習の推進 ①研究主題「一人一人が主体的な子どもの育成」 →自分とは異なる考えに触れながら、自らの見方・考え方を働かせることで、協働的に学ぶことの価値を見出せるような授業を構築する。また、一人一人の見取りや評価を大切に、個に応じた学ぶ手だてを充実させる。 ②研修体制・共有の場の充実 →各教師の専門性を生かした研修を充実させ、日常の授業で活用できる指導技術を互いに学び合う機会を増やす。また、学年学級に関わる研修や経営交流会を定期的に実施し、学校全体で子どもを見ながら育てる環境を創る。	◇子どもの声から、学級や学校を創造する活動の推進 ①子どもたちの思いに沿った委員会の再編 →既存の枠組みにとらわれず、子どもたちの思いに沿った活動ができるように委員会を再編した。また、委員会同士の連携を促進するために定期的に委員長会議を開く。 ②コミュニティ・スクールの活用 →パートナー校同士の交流において、子どもたちがお互いの実践を報告し合うことで、自分たちの活動にも生かしたり、共通の地域課題の解決に向けた活動に共に取り組む機会を設けたりする。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	◇学習や自治的活動での ICT の活用 ・ICT 活用表を元に、各学年の教科で体系的にプログラミングや生成 AI 等を活用する。端末の持ち帰りを通して、自ら進んで ICT を活用できるようにする。 ・委員会やクラブ等の活動でクラスルームやスプレッドシートといったツールを積極的に活用する。	

<本プログラムの実行に向けて>



